

2020年度 第4回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

1. 開催日時 2020年12月20日(日)10時~12時
2. 方法 ZOOMによるオンライン研修
3. 参加者 遠入・高倉・島・村上・新宮・中澤敦・阪本・大西・宇和谷・辻本・川崎
加藤・古山・石田・尾上・中澤

4. 内容

(1) 豊かな水・小学4年生 (平城小学校 村上先生)

どう、自分事にしていくのかについて取り組んだ

調べる 川上村音無川 昆虫の話聞く(古山さんより)、川での体験活動
秋篠川 谷幸三先生 川の生物調査

深める 気づいたことを模造紙にまとめる

川の発見を古山さんに伝え、アドバイスをもらう 人とのつながりも深まる

河川課 大和川、有機物に関する実験：秋篠川の水もきれいなんだ

気づく 「人」「自然」「生き物」「川の様子」でまとめていき、それを毛糸でむすんでいく

→ 生き物と人はつながっている を実感

毛糸を玉にする → すべてはつながっている

しかし「知識・体験・思い」が自分とつながった感想には思えない

自分のこととしてつなぐ必要がある

自分事にするための取り組み

情報の整理

秋篠川の未来を想像させる(総合) 平城京の時代に人の手によってつくられた

現在は生き物がつながっている

未来

自然への思いを寄せる(国語科)

詩にしてみる 生き物になりきって(「野原うた」より)

多様な視点から考えるきっかけとなった

自分事化するには詩作が有効

自分思いを明確にすることができた 次は行動化

※意見交換

詩作への視点が素晴らしい。自分事として考えられている

次の行動化を促す方策を考える際、防災など

毛糸でつないでいくのは目に見えるの、感覚的によくわかる(本来は川の広がりを示すための手段)

ひとつだけ解決しても終わらない、ことも SDGsの学習に活用できそうな手法

毛糸の色も関係して利用できる。「し・あ・環・せの糸」(ネーミングは尾上さん)

授業参加の観点：古山さんも虫の気持ちになって考え、伝えようとしている。共通点。

総合から国語へと教科横断的な学習になっているのいい。

実践者の強みを生かした授業になっている。

詩作は単元構想時から計画していたのか→途中で国衙で表現することを思いついた

俳句では視点がずれていた。今回は「生き物になって」「未来」と視点を定めた。

※行動化を促すために

- ・詩などの作品を共有する 家族などにも伝えることをまずやるといい
- ・生き物視点か川視点でいくのかを明確にすると 生物多様性・地域の環境・防災なのか
→ 平城宣言をつくるなかでの多様性を確保したい
- ・アンケートなどで継続的に行動化を維持する。
- ・他の学校とオンライン交流などで行動化への意欲を高める
- ・学校としてのカリキュラム・マネジメントが必要 時間の確保、楽に行動化ができる
長期の休みを使う。 一人一人の行動を丁寧にサポートする。

※継続がキーワードかと思った。継続的に行動をモニタリングしていきたい。

ラップのアンサーソング（誰かの詩、自分の詩に対して）

(2) 辻本先生（川上小学校）5年生 食と環境

「川上村から世界へ！ ～コロナと食問題～」

休校中に気づいたことを出し合う

よく買い物に行くお店が受けた影響を知りたい アンケート調査

学校給食への影響は 栄養職員の先生にインタビュー

もっと食について調べたい

自給率の向上が求められていること

川上宣言とSDGsの関わりから、村の自給率をあげられないか

目標14・15・16 はできている。今回は目標11に

村外調達を村内調達にできないか

村内の農業を応援することが大切 「やまいき市」
買い物に行けない人がいる
地産地消・地域創生
村内の人が購入するのが多い

村内の生産者（おじいちゃん・おばあちゃん）を訪問

環境のよさを活用した生産をされている

やまいき市の人が回収に来るのを楽しみにしている（人と人のつながり）

やまいき市を応援したい。

意見交換

- ・都会では得られない体験 ほんものの体験 人の温かさ 村づくりにつなげているいい実践だ
そこでしかできない体験、学びがあると思った。
- ・お金が全てではない、人とのつながりの大切さを学ぶことができる
- ・コロナ禍の導入が優れている。
- ・いろいろな本物を教材にされている。環境にこだわらずに村づくりへ進まれてはどうか。広がりがある。 他地域へと広げることで一般化した学習になる。
 - ・経済以外の価値に気づく学び。

生き物 川崎先生 耳成南小学校生活科

虫への関心を高める 鳴き声クイズ 生き物に関する知識の共有 校内生き物探し
生き物採集 観察カードへの源流館の古山さん（昆虫湯専門家）がコメント記入

教科横断・図工：光のプレゼントで表現活動

調べ学習 図鑑を用いる 図鑑のよさ

森と水の源流館・橿原市昆虫館とのリモート交流

子どもの質問に専門家より丁寧に答えてもらう

特別活動・運動会

分布図の作成 廊下で掲示

子ども同士の関わりや教員同士の協力関係が形成できた。

意見交換

- ・つながり がたくさんあった。
- ・他教科や特活の時間を利用することで、子どもの意欲の継続ができています。
- ・2つの施設をリモートでつないでいたのが、先生の行動力を感じた
- ・生き物の命を尊重する態度の変化はあったか？
- ・フィールドワークと体験と人との出会いがE S Dでは大切。

阪本先生よりアドバイス

- ・鳴き声クイズで子どもの関心を高めたのがよかった。生活科は体験を通した学ぶ教科なので、動機付けがキーポイントになる。
- ・1年生と2年生の追究の違いを感じた
 - 1年生：名前をつけて大事にする・飼育の中での発見 何を食べているのかなあ
 - 2年生：自分たちが抱いた疑問を追究していく
- ・つながりがキーワード 子ども同士・専門家とのつながり
- ・ICTの活用について どんどん活用する場面を提供していくことが大切
リモートを用いた交流もよかった
- ・学習の出口を工夫する
分布図の利用方法をさらに（目的だけでなく、学びを広げたり深めたりするために）
- ・命の大切さについて考えることが大事
 - 生き物が死んだときがそのタイミング 悲しみー詩作 話し合い